

除草剤を使わない飼料用トウモロコシの栽培		
<p>[要約]</p> <p>4～5月播種の飼料用トウモロコシにおいて、飼料カブを100g/10a同時播種することにより雑草が抑圧できる。また、農薬を使わない安全・安心な自給飼料が収穫され、しかも農薬代が節減される。</p>		
畜産試験場・草地・放牧経営部	連絡先	0974-76-1248

[背景・ねらい]

飼料用トウモロコシ（以下トウモロコシと略称）の雑草防除には除草剤が広く普及しているが、最近の環境保全型農業への関心の高まりの中で無～減農薬栽培が求められている。

このような実情をふまえ比較的低コストで一般農家に取り入れやすい、安全・安心な飼料作物栽培技術を開発した。

[成果の内容・特徴]

- 4月16日にトウモロコシと同時播種した飼料カブ（100g・10a）は、初期生育時から旺盛に葉を広げ、約40日程度で被度が約100%となり雑草類を被圧する。一方、7月に入ると飼料カブは衰退し、これに代わってトウモロコシが被度100%となり、草高を伸ばしながら有利な受光態勢を確保し上方への生育を続ける。（図1，2）
- トウモロコシの乾物収量は、除草剤を使用した農薬区の85～90%程度の収量となる。（表1）

[普及対象]

県内一円の畜産農家。

[成果の活用面・留意点]

- トラクターでの追肥は踏圧でカブの損傷が懸念されるので、元肥をその分多めに施用しておく必要がある。
- トウモロコシの条間は70cm，栽植密度は慣行の作型よりも10%程度多めの方が効果的である。
- カブは、散粒器で播種し、覆土鎮圧も丁寧に行うことにより均一に生育する。
- カブの品種は葉部割合の多い「下総カブ」や「ケンシンカブ」が良い。
- 排水不良地、痩せ地などトウモロコシ生育不適地には適さない。
- 4月中旬～5月末までの播種に限定される。

[ 関連データ ]

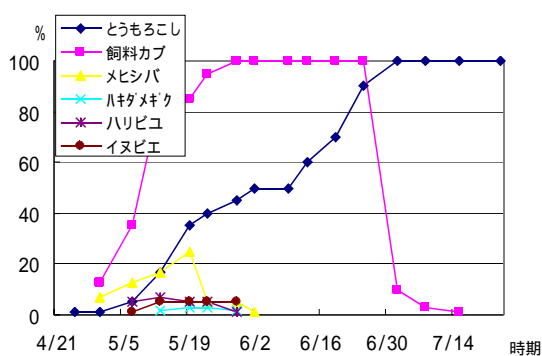


図1 とうもろこし等の被度の推移  
(三重、4月16日播、100g区)

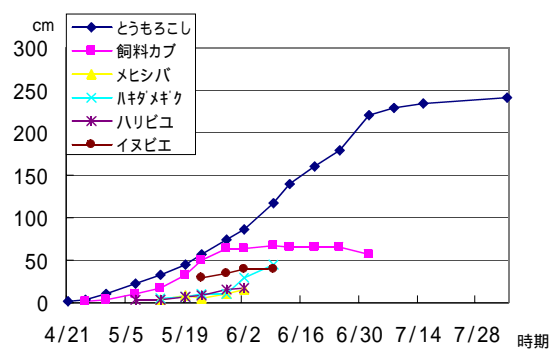


図2 とうもろこし等の草高の推移  
(三重、4月16日播、100g区)

表1 処理区毎のとうもろこしの乾物収量  
(三重、4月16日播)

処理区	とうもろこし			雑草
	茎葉重	雌穂重	計	
(kg/10a) (kg/10a) (kg/10a) (kg/10a)				
150g区	629	496	1124	
100g区	577	505	1082	
農薬区	709	567	1276	0